

統合電子カルテの実現に向けて

森 典子^{*,**}

私事ですが、この3月の静岡県立総合病院退職後、JCHO 桜ヶ丘病院に籍を移しましたが、静岡県立病院機構情報企画総括監の役職をいただいて統合電子カルテシステム構築プロジェクト（通称：アポロン・プロジェクト）に取り組んでいます。

このコラムは何を書いてもよいとのことでしたので、腎臓内科とはあまり関係ありませんが、現在私が取り組んでいるプロジェクトについての説明と所感を述べます。

当機構は総合病院、こころの医療センター、こども病院の3病院から成り立っています。たまたま3病院の電子カルテのリニューアル時期がほぼ一緒ということもあり、電子カルテを統合するという野望を実現しようと取り組み始めました。アポロン・プロジェクトと銘打って、病院間の調整、電子カルテベンダー（どこが入るかは未定です）との意見交換、サーバー棟やネットワークの構築に労力を注いでいるところです。

機構内の3病院はそれぞれ特殊な医療の歴史の上に成り立っているため、文化も運用も異なった土壌をもっています。統合するためのシステム上の問題をクリアするだけでなく、3病院の現行の患者IDの扱い、診療データの移行の仕方、統合後の新規患者IDの振り方、オーダの施設ごとの切り分け、各部門システムのあり方、利用者の管理や権限設定、システムや診療情報の管理体制、規定や監査の

* 静岡県立病院機構静岡県立総合病院腎臓内科

** JCHO 桜ヶ丘病院

あり方などなど、考えなくてはならないことが山ほどありますが、クリアしながら進むしかありません。

しかし、これら難題があろうと、統合のメリットは大きいと期待しています。1 患者 1 カルテ化による診療上の利点（ことに移行医療への対応）、各種ビッグデータの活用、機構内のスタッフの移動への対応、物流の管理、経営分析など、統合化が資するところは大きく、また、システムのリニューアルや保守の経費削減も期待しているところです。

現在、一般の電子カルテや部門システムの仕様を作成するだけでなく、3 病院が統合するための仕様を作成しています。まだまだ考えの至らない部分があると思っていますが、3 病院からの精鋭を集めた project management office と各 working group のメンバーとこれを下支えする情報企画スタッフの総力をあげて取り組んでいるところです。道半ば（まだ 1/3 くらい）ではありますが、各所と議論しながら進んでいきます。

情報の統合化は、今回のように一機構内で悩みながら進むべき仕事かどうかという、国家的プロジェクトが進むのであればそれに乗ったほうがはるかに気楽だとは思いますが、とてもそれを待っている余裕はありませんので、頑張っている次第です。

この記事をお読みいただいた方にはぜひ今後のプロジェクトの行く末を見守っていただければと思います。お付き合いありがとうございました。